

平成29年第1回中津川市議会「定例会」  
一般質問通告表

平成29年3月8日(水)・9日(木)

質問日	順序	質問事項	質問者	答弁を求める者	発言所要時間 (質問方法)
3 月 8 日	1	1. 公園の現状について 2. 安定的な水の供給を確保するためについて	田口文数	市長 文化スポーツ部長 基盤整備部長 水道部長 教育長	40 (一問)
	2	1. 国道257号を中心とした観光行政について 2. 中山道歴史資料館のあり方について 3. 青木斧戸線の現状進捗状況について	吉村浩平	市長 商工観光部長 文化スポーツ部長 基盤整備部長	40 (一問)
	3	1. 地域と行政の関わり方について	粥川茂和	市長 総務部長 定住推進部長 生活環境部長 病院事業部長 教育長	40 (一問)
	4	1. 各事業の計画・実行・評価・改善(PDCA)について 2. 介護事業について	牛田敬一	市長 政策推進部長 財務部長 健康福祉部長 生活環境部長 基盤整備部長	20 (一問)
	5	1. 平和教育の継続について 2. 賤母発電所について 3. 中津川市民病院・国保坂下病院について	佐藤光司	市長 商工観光部長 病院事業部長 教育長	35 (一問)
	6	1. 「都市鉱山から五輪メダルを」について 2. 小中学校のトイレの洋式化の推進について	鈴木清貴	市長	30 (一問)

質問日	順序	質問事項	質問者	答弁を求める者	発言所要時間 (質問方法)
3 月 9 日	7	1. 中津川市の観光によるまちづくりについて	栢植貴敏	市長	40 (一問)
	8	1. 中津川市の防災対策について 2. 移住・定住推進にもつながる子育て・介護の支援策について	櫛松直子	市長 定住推進部長 健康福祉部長 生活環境部長 教育長	30 (一問)
	9	1. 坂下病院の機能縮小問題と「新公立病院改革プラン」(案)について 2. リニア新幹線問題とリニアまちづくりについて	木下律子	市長	40 (一問)
	10	1. 安全・安心の街づくりについて	森益基	市長 政策推進部長 総務部長 健康福祉部長 生活環境部長 基盤整備部長 消防長	20 (一問)
	11	1. ふるさと納税について 2. 市職員の健康管理について	吉村久資	市長 政策推進部長 総務部長	40 (一問)

発言通告に基づきまして、一般質問をさせていただきます。

今回は、大きく 2 点の質問をさせていただきます。1 つ目に公園の現状について、2 つ目に安定的な水の供給を確保するためについて質問をさせていただきます。

最初に公園の現状についてです。

公園とは、子ども達が楽しく遊ぶ場所、憩いの場、デートの場、散歩の場、スポーツの場、高齢者の集いの場、昼寝の場、休息の場、自然探求の場と多くの場として公園の存在があります。

特に子育てに、公園は重要な環境の場となります。母親では公園デビューという言葉があるように、ご近所さんや子育て世代との交流の場となります。

## 1、住区基幹公園

①、街区公園、もっぱら街区に居住する者の利用に供することを目的とする公園で誘致距離 250m の範囲内で1箇所当たり面積 0.25ha を標準として配置する。

(えびす公園、桃山公園、一色公園)

②、近隣公園、主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園で近隣住区当たり 1 箇所を誘致距離 500m の範囲内で1箇所当たり面積 2 ha を標準として配置する。

(旭ヶ丘公園、手賀野公園、本町公園)

③、地区公園、主として徒歩圏内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で誘致距離 1 km の範囲内で1箇所当たり面積 4 ha を標準として配置する。都市計画区域外の一定の町村における特定地区公園(カントリーパーク)は、面積 4 ha 以上を標準とする。

(苗木公園)

## 2、都市基幹公園

①、総合公園、都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とする公園で都市規模に応じ1箇所当たり面積 10～50ha を標準として配置する。

②、運動公園、都市住民全般の主として運動の用に供することを目的とする公園で都市規模に応じ1箇所当たり面積 15～75ha を標準として配置する。

(中津川公園)

公園でも多くの種類の公園がありますが、公園の状況や遊具などについて質問させていただきます。

①中津川市には、小さいちびっこ広場から、大きな中津川公園までいくつの公園がありますか、お伺いします。

②公園によっては、指定管理や清掃の委託、植栽の剪定作業の委託などありますが、年間の維持費はいくらになるか、お伺いいたします。

③近隣公園、ちびっこ広場などの公園台帳などの作成はしていますか、お伺いいたします。

④遊具の点検管理の把握はされていますか、お伺いいたします。

⑤遊具を始め施設の劣化・腐食や構造の問題点の把握は中津川市の市有地に設置していることもあります。万が一、事故等が発生した場合のために、保険には入っているのですか、お伺いします。

⑥幼稚園、保育園、小学校の遊具の設置状況は充実しておりますか、また今後、遊具の設置の計画等がありますか、お伺いします。

⑦2年前に、各地域に遊具の撤去に関するアンケートを実施いたしましたが、どのような結果でしたか、お伺いします。

⑧撤去費用の補助はどのようになっておりますか、お伺いします。

⑨国土交通省によると全国の公園にある健康遊具の数は、増加傾向にあるそうです。子どもだけでなく高齢者の健康遊具の設置を推進してはいかがでしょうか、お伺いします。

⑩新しく遊具の設置に関して、補助金はありますか、お伺いします。

⑪空き缶やペットボトル、コンビニエンスストアで購入したお弁当のゴミ、タバコの吸殻など、多くの公園でポイ捨てが行われています。

ゴミ箱の設置状況やゴミの分別など行政として環境美化に取り組まれていますか、お伺いします。

⑫従来からの公園の利用法とは別に地震、防災時の非難の場としての空間利用としての対応も大きな課題となっています。

地域の防災の拠点としての防災倉庫の設置場所としての立地や防火用水の埋め込みなどのほか、災害時の避難場所としての機能を求める声も大きくなっています。

避難所として指定している公園の機能、設備は充実しておりますか、お伺いします。

⑬子どもは遊びの天才です。ボール1つあればどんな遊び方もしてしまいます。最近では、公園に集まりゲーム機をしているのが目立ちます。

昔の遊び（缶蹴りやぼこぺん、陣取り合戦、だるまさんが転んだ）などの遊びを学校や地域で伝えていくことができれば、遊びの継承になると思います。

幼稚園、保育園、小学校の授業の中でできませんか、お伺いします。

⑭トイレの水洗化にはなっておりますが、洋式、和式の割合はどうなっておりますか、お伺いします。

⑮市長はリニアの見える丘公園は、どのような構想をお持ちか、お伺いします。

次に大きく 2 点目の安定的な水の供給を確保するためについて

国では回復の兆しを見せ始めた経済成長の恩恵を地方や中小企業に着実に広げていくとして、成長と分配の好循環の実現のための生活密着型インフラ整備を推進しています。

平成 29 年度水道施設整備予算案には全国の自治体で老朽化が進み管路の更新が問題視されている水道施設の水質安全対策・耐震化対策として 355 億円が計上されています。これは前年度より 20 億円の増額であり、従前に増して水道管の修繕や改修を担う地域の中小・小規模事業所に経済波及効果が及ぶことが期待されています。

そこで、中津川市での水道法改正となることに基づき水道事業の現状と将来の見通しについて質問させていただきます。

①水道施設の適切な資産管理を推進する上で欠かすことのできない水道台帳の整備の状況はどうなっているか、お伺いします。

②日本の水インフラは高度経済成長期の 1970 年代に急速に整備が進んだため、今後一気に老朽化の波が押し寄せてきます。しかし、全国の管路更新率は 0.76% であり、このままのペースでは全てを更新するまでに 130 年かかる見通しだそうです。

中津川市では、管路更新率は何%ですか、お伺いします。

③水道事業の中長期的な更新需要と財政収支の見通しを把握するにはアセットマネジメントが必要ではないでしょうか。水道事業の健全な経営と安定的な水の供給確保に向けてアセットマネジメントを速やかに実施すべきではないかと思いますが、いかがですか、お伺いします。

④アセットマネジメントの結果に基づき、施設更新の今後の見通しを、お伺いします。

※水道におけるアセットマネジメント（資産管理）とは、「水道ビジョンに掲げた持続可能な水道事業を実現するために、中長期的な視点に立ち、水道施設のライフサイクル全体にわたって効率的かつ効果的に水道施設を管理運営する体系化された実践活動」を指す。

※水道におけるアセットマネジメント（資産管理）の実践においては、水道事業の特性（代替性が小さい、受益者負担が原則など）を踏まえつつ、技術的な知見に基づき現有資産の状態・健全度を適切に診断・評価し、中長期の更新需要見通

しを検討するとともに、財政収支見通しを踏まえた更新財源の確保方策を講じる等により、事業の実行可能性を担保する必要がある。

⑤昨年の熊本地震では耐震化の必要性が表面化した。管の継ぎ目に伸縮性を持たせる耐震化を今後どのように進めていきますか、お伺いします。

⑥耐震化率はどうなっていますか、お伺いします。

⑦人口減少に伴う水道事業の収支の悪化と技術者の確保が難しくなる現状に対し、住民生活に直結する水の安定供給のためには広域連携が重要になってまいります。広域連携に向けた中津川市の取り組みを考えていますか、お伺いします。

## 2017年3月議会一般質問

中津川市議会議員 吉村浩平

今回は、3つの大項目「国道257号を中心とした観光行政について」、「中山道歴史資料館のあり方について」、「青木斧戸線の現状進捗状況について」として質問いたします。

10年後にリニア開業を控え、先を見据えた計画の策定をし、開業までの間に観光行政の充実をすることは、リニア効果の最大限の活用のために必要不可欠になります。

リニアの利便性を活用して観光客を呼び込むこと、リニア新幹線と基地そのものを観光面で活用すること、工業・建設業の振興につなげること、若者の移住定住につながる事などが考えられ、大きな期待を持っています。

1月の選挙で4回目の当選をされた古田岐阜県知事も、恵那山麓地域の観光開発を支援したいと表明してみえます。

観光と道路は密接に関連しており、その観点からも質問させていただきます。

### 1. 国道257号を中心とした観光行政について

リニアの開業との同時開通を計画されている濃飛横断自動車道は、遅れることなく実現できることが大切で、リニアの工事車両が通行することでの地元への影響が極力少なくなるように、一日も早い完成をみたいと思います。

さらに濃飛横断自動車道は、市北部にリニア効果を活かすために重要な道路であり、国道257号へのスムーズな接続と合わせて現道としての257号の整備が必要です。

そしてリニア効果が波及する施策も必要と考えられるところです。

そこで、地歌舞伎や、苗木城跡の文化的資産を生かすことを考えたいと思います。

- ① リニア開業まであと10年となっている中、濃飛横断自動車道「通称リニア工区」の10年間の計画に対して、市としてどのような立場で推進していくか伺います。
- ② この路線が開通することにより、交通量の増加とともに国道257号との合流地点・美恵橋の手前については、混雑も予想されます。その点に関しての対応策の考えがありますか。
- ③ 岐阜県との連携になるかと思いますが、沿線住民への説明会・協議については十分行われていますか。
- ④ 濃飛横断自動車道のリニア工区の完成を踏まえて、国道257号の現道を整備する必要性についてどのようにお考えですか。
- ⑤ 国道257号の観光面での活用について伺います。

県の2017年度当初予算に、「ひがしみの歴史街道を核とした広域周遊観光の促進：2000万円」とあります。知事は「地歌舞伎街道」として観光政策を充実することを表明しています。このことに対して中津川市としての考えはいかがですか。

- ⑥ 県が提唱する「地歌舞伎街道」事業が、地方創生の補助金の対象事業となるか調査



研究し取り組んでいただきたいが、どうでしょうか。

- ⑦ 市内6地区の地歌舞伎保存会は、どこも運営が苦しいと聞きます。6地区の保存会の活動の把握はできていますか。
- ⑧ 運営的な面での支援をする考えはありますか。
- ⑨ 資金的な面で、各地区保存会への補助金を充実する考えはありますか。
- ⑩ 観光面での効果が期待される地歌舞伎をアピールするラッピングバスについて、どのように取り組みをしていきますか。
- ⑪ 観光客への周知も大切です。観光客の増加に合わせての国内各地・各団体への売込の拡大・充実の必要性についてはいかがですか。
- ⑫ 名古屋城の木造での再建案も出ています。建築物として木造での苗木城の再建が理想だと思いますが、プロジェクションマッピングなどの最新の技法を活用したPRは考えられませんか。
- ⑬ 青邨記念館の跡地周辺の民有地の活用について何か考えはありますか。
- ⑭ 苗木城へ訪れた観光客への土産物の販売や、地元の特産物の販売による経済効果が得られるような施策が期待される場所です。この点についての考えはありますか。
- ⑮ 苗木城への進入路の入り口あたりに、ブース式のテント村的な土産物の販売所が公設民営の形で開設できることが理想だと思います。このような展望に対してどのようにお考えですか。

## 2. 中山道歴史資料館のあり方について

中山道歴史資料館は、名前のごとく中山道中津川宿の真ん中にあり、中津川市景観計画「景観重点区域」「本町中山道地区」として整備された地域にあります。

本年2月4日、飯田市議会と中津川市議会の交流会を中山道歴史資料館で開催しました。研修として安藤館長の講話、本町中山道地区の散策をしました。

安藤館長の講話では、飯田市と中津川市の歴史的な結びつきを保存資料からわかりやすく教えていただきました。

飯田市議からは「中津川市と飯田市の関係は三菱電機だけとっていたが、歴史的に結びついてきたことがよくわかって良かった。」と大好評でした。

また、地元市議からも「こんなことがあったのか。」と中津川市の良さを再発見したとの声も聞かれました。

そこで、中山道歴史資料館が歴史的に重要な資料を保管する施設、中心市街地の活性化に寄与する施設、リニア効果を生かす観光スポットの1つとなる等、多面的な機能を持った施設となることを願い、中山道歴史資料館の現状と今後の方向について質問いたします。

- ① 資料館の保存資料の主な内容はどのようなもので、点数はどのくらいありますか。
- ② 現在は主にどのような事業に取り組んでいますか。
- ③ その中で、最近取り組んだ新しい事業はありますか。またその事業でどのような効

果が出ていますか。

- ④ 過去5年間の入館者数の推移はどうですか。
- ⑤ 来館者が急激に伸びている要因については、どんなことがあると考えますか。
- ⑥ 現在の展示は古文書が中心であり、子供や一般市民には難しく、子供や一般市民がわかる展示と専門家向けの学術的な展示を分けたらいかがでしょうか。
- ⑦ 展示内容について、日本人の観光客や外国人の観光客に配慮した展示はありますか。
- ⑧ ソフト面での充実を図るための予算配分については、しっかり確保していくべきだと考えますが、いかがですか。
- ⑨ N T Tから借りているこの施設は、高額な賃借料と聞いています。現在使用している建物の契約内容はどんなものですか。
- ⑩ その契約期限が来た場合はどのようにするお考えですか。
- ⑪ 新しい施設ができるまでの期間はどのように対処しますか。
- ⑫ この間のN T Tとの契約内容についてよく検討すべきだと思いますが、これはどのようにお考えですか。
- ⑬ 資料館の新しい施設への移転という話も聞いていますが、この施設の完成の目途はどうなっていますか。

### 3. 青木斧戸線の現状進捗状況について

この道路が完成すれば、この地域の新たな方向性が出てきます。また、地域が大きく変わることが期待できます。平成27年から取り組みが始まり、地元説明会などを開催しています。

青木斧戸線の現状と今後についてうかがいます。

- ① この道路における市街地の渋滞緩和の効果について、どの地域・どの範囲に対してどのくらいの効果を期待するものですか。
- ② 現状進捗状況について、沿線住民との協議が十分でない地域もあると聞いていますが、今後どのように地元と協議を進めていきますか。
- ③ 道路が1本開通するとその沿線には商業施設などが進出してくることが多いですが、今後の道路沿線の土地利用についてはどのようなお考えですか。
- ④ 平成31年度の開通を予定しているとお聞きしています。この路線の早期完成のための国、県への予算要求活動には努力しておられることと思います。前倒しでの開通とまでいかなくても、期限内完成の見通しを伺います。

## 趣旨

中津川市の市政は本市の市民のために行われ、平等な福祉を受けられる配慮と、そのサービスが継続発展する取り組みが求められる。

また福祉向上に資する施策はもちろん、取組手法や状況などの情報は市民に判りやすく提供しなければならない。更に市民の意見要望も適切に聞き入れることも欠くことのできない要件である。

この当たり前で大切なことを行う為には、行政関係者の理解とやる気はもとより、地域に於いても環境を整える必要があると考え、以下にオムニバス形式の質問を行う。

## Q 1. ごみの減量を目的とした手数料制度について

- (1) 今回の出席者は 469 人、出席率は最高でも 6.1%に止まり、目的が果たせたとはいえにくい。制度導入前に、ゴミの減量が地域に浸透するような説明会を行うべきではなかったか？

## Q 2. 公立病院に関する市の方針について

- (1) 1 月 31 日開催の公立病院地域協議会で、市長方針に基づく病院機能及び今後の取り組みについて、「医師の招聘が出来た場合でも急性期、回復期の集約は変更しない」と明記した資料を示した。このことは市長方針と違うと思うが見解は？
- (2) 地域協議会での議論は、坂下病院の入院機能廃止に前のめりの感があるが見解は？
- (3) 坂下病院のあり方について、地元では一般病床の存続を望んでいる。実現するには有床診療所なら可能ではないか？
- (4) 上矢作病院は医師 3 人で、一般病床 19 地域包括ケア病床 37=56、坂下病院との違いは？
- (5) 9 月定例会で、今後も適正な時期に進捗状況を伝えるとともに、地域協議会でも説明を行なうと答弁（議事録 P58）あり、地域説明会と理解した。今は説明の時期と思うが見解は？

## Q 3. 地域要望の受付について

- (1) 地域要望の受付要領をどの様に承知しているか？
- (2) 地域要望の受付要領が総合事務所及び地域事務所に周知してあるか？

(3) 受付要領の変更指示がしてあるか？

Q 4. 市政の安定継続のための教育について

- (1) 郷土愛を育むため、中津川市独自のカリキュラムがあるか？
- (2) 自然の恩恵への感謝や、資源の大切さはごみの減量意識に繋がると思うが、中津川市としてどのような教育を行なっているか？
- (3) 以上のような中津川市独自の教育が不可能とすれば、武雄市のように、子どもの理解力を高め授業効率を上げるタブレット活用を導入してはどうか？

Q 5. まとめ

- (1) ごみ減量検討市民会議のメンバー選出基準は？
- (2) ごみ減量検討市民会議のメンバーは市民の代表であり、会議の目的や情報を地域に提供しているとの認識か？
- (3) ごみ処理手数料制度説明会の開催を地域の誰に通知したか？
- (4) 公立病院地域協議会のメンバーは、やさか地域以外、区長会推薦となっているがその理由は？
- (5) 地域協議会のメンバーは、やさか地域以外、区長会だけの推薦であるが、地域を代表するのは区長会との認識か？
- (6) 地域協議会は会議の経過や結果情報を、地域に提供しているとの認識か？
- (7) 地域自治組織育成の考え方について。
  - ① 「中津川市定員適正化計画」によると、医療機関を除く H30 年度までの職員数の目標は 29 年度 799 人、30 年度は 796 人で、行政サービスの高水準維持は困難となり、地域自治組織との連携が重要とされないか？
  - ② 市は地域自治組織の育成が急務と考えていないか？
  - ③ 当市は地域自治組織について、活動の根拠となるものを示していないが、どのように考えているか？
  - ④ 定住推進部長は配属後 1～2 年で転属となっているが、当該期間で充分職責が果たせるとの認識か？

以上

## 1. 各事業の計画・実行・評価・改善（PDCA）について

### 《背景》

中津川市総合計画（平成27年度～平成38年度）の基本構想で定める将来都市像、「かがやく人々 やすらげる自然 活気あふれる 中津川」を実現するため、日々取り組まれています。しかし、環境が著しく変化する時代において、常に振り返ることと目先ではなく将来を見据えた取組み（メリハリ）とスピード感が要求されると考えます。

例えば、出生率の回復が5年遅れると人口が約300万人減少するなどと言った記事を目にすると待ったなしの状況であり、現状をしっかりと把握する観点から質問致します。

### 《質問》

#### ①平成26年の前期事業策定時の予算規模について

H26：一般会計予算 363 億円 → H30：342 億円と予測されていました。

平成29年度では、すでに365億円となっています。この差について見解を伺います。

#### ②前期事業計画が2年経過しました。前期事業の進捗状況を伺います。

#### ③外部評価の目的について（1）

総合計画(前期事業実施計画)に位置づけられた重点事業(戦略事業、大型事業)について外部評価を行うことで問題点を洗い出し、その原因を改善して進捗のスピードアップを図り、効率よく事業効果をあげることを目指すとありますが、その効果を伺います。

#### ④外部評価の目的について（2）

外部評価委員会の評価結果を広く市民へ周知し情報を共有することで、市民と行政の協働意識を高め、共にまちづくりを推進していくとありますが、どのような仕組みを考えていますか。

#### ⑤平成28年度に開催した外部評価委員会の評価結果と市の対応について議会に説明されますか。

#### ⑥平成29年度予算編成にあたっての市長コメントにリニア駅が設置されることによる効果を東濃地域・県内全域に波及させることができるよう、アクセス道路等のインフラ整備に取り組むとともに、企業誘致・医療・福祉・防災などに取り組んでいくとありますが具体的にお聞かせ下さい。

#### ⑦大明神トンネル施工に伴う道路が開通したことにより大型店舗等が進出し土地開発が進み、住宅が増えたことによる効果を伺います。

#### ⑧青木～斧戸線整備による道路以外の効果をどのように捉えていますか。

#### ⑨市営墓地の数と総区画数を伺います。（苗木南八幡墓地及び坂本辻原墓地の新区画を除く）

#### ⑩市営墓地の総区画数の内、返還された区画や未使用区画数を伺います。

#### ⑪苗木南八幡墓地は平成26年度に完了し、120区画を造成、内70区画を整備されました。現在、契約されたのは2区画と認識していますが、事業策定時の計画と大きな差があると考えますが、見解を伺います。

#### ⑫平成27年度より整備されている坂本辻原墓地は、116区画を造成、内66区画を整備され、平成29年度より分譲する計画と認識しています。当初の計画では、どのくらいの分譲数を見込んでいますか。

## 2. 介護事業について

### 《背景》

介護事業は、制度や要件等が複雑に絡み合い、市民要望も個人差があり対応に苦慮されていると認識しています。限られた資源を有効に使うため介護施設の増設・介護保険料の改定・介護スタッフの増員・家族の介護に対する知識の向上や支援等が考えられます。今後、さらに需要が高まる介護事業について伺います。

### 《質問》

- ①高齢者の総合相談件数が平成 26 年度：10,592 件から平成 27 年度：12,418 件と約 2,000 件増加しています。増加した原因を伺います。
- ②2 月 2 日の所管事務調査の今後の課題について  
一人ひとりにあった介護サービスの充実 ⇒ 在宅介護の環境整備を行っていく  
在宅介護の環境整備とは、どのような内容なのか伺います。
- ③在宅介護者の身体的・精神的負担を軽減するため、在宅サービスの適正利用を推進し、介護者の介護による離職（介護離職）を防ぐために地域包括システムを構築していくとありますが、いつまでに、何をどのように進めていくのか伺います。
- ④在宅医療・介護連携推進事業の個別事業とその工程計画の中に地域医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握し対応策を検討とありますが、主にどのような問題が挙がってきていますか。
- ⑤在宅医療では、介護者の負担も多く、地域包括ケアシステムだけでなく、医療と介護の一体化した施設は考えていませんか。
- ⑥安定したサービス提供を行うために、介護職員処遇改善加算を推進し、介護人材の確保を図っていくとありますが、内容を伺います。

以上

2017年3月議会

一般質問（一問一答方式）

佐藤 光司

## 1 平和教育の継続について

かつて、平和教育を取り上げ、若手教職員の平和教育について大井教育長の考えをお聞きしました。教育長職として答弁を頂いた訳ですが、文部科学省からの指導方針と同じ気がしました。これは、私の感想です。

思い浮かべますと、子供による殺人事件が浮かびます。人間の命の尊さを子供たちに伝える活動を、学校教育で実践出来るように若い教職員を育て上げたものと思います。

人間の命を大切にする歴史に、平和教育があげられると思います。以前にも指摘しましたように、満蒙開拓の歴史が有ります。満州での生活を経験された本を最近手にすることができました。「ああ満蒙 苦節十五年」。満蒙開拓の経験を、思い出しながらメモをとり、一冊の帳面から協力者の力で、昨年小冊子が完成し、私の手元にも届きました。満州開拓へ参加した記録や、家族の様子、現地での生活などが生々しく綴られています。昭和14年10月2日に三留野駅を離れ、昭和28年5月15日に舞鶴に上陸されたようです。

この人は、自分の経験を後世に残したいと思い、協力者を得て「ああ 満蒙 苦節十五年」を作り上げられました。

具体的な質問

- ① この本をご存知ですか。
- ② ご存知でしたら、この体験話を次世代に伝えることはできませんか？
- ③ 阿智村に満蒙開拓記念館がありますが、感想はどうですか？
- ④ 教育関係者としての戦争教育に対して、どんな思いがありますか？
- ⑤ 平和教育を継続することを、私は望みますが、どのように思いますか？

## 2 賤母発電所について

以前の一般質問で、「對鶴橋」について質問しました。今回は、隣接します賤母発電所について一般質問します。

木曾川水系のうち、八百津発電所について大正 8 年完成。大井発電所が大正 13 年であることから、随分歴史のある発電所であります。所有は現在、関西電力。歴史ある発電所でありますから、對鶴橋と一体のものとして捉えることができると思います。今回、観光資源として提起したいと思えます。

### 具体的な質問

- ① 對鶴橋を関西電力が管理しなくなると聞いたことがありますが、市は把握していますか？
- ② 市として世界遺産登録への取組みを進めてはいかがでしょうか？

## 3 中津川市民病院・国保坂下病院について

全国市議会旬報第 1998 号、平成 28 年 12 月 25 日を拝見しますと（6）面に、病院協が要望活動と題して、報告されています。

内容は、平成 28 年 11 月 28 日全国自治体病院経営都市議会協議会の役員が、総務大臣・厚生労働大臣政務官・細田自由民主党総務会長・自治体病院議員連盟会長、片山さつき自民党政務調査会長代理と面談し、要望書を手交の上、要望、意見交換を行った。

要望は「自治体病院経営に関する要望」に基づいて行った。経営安定のため、小児医療、救急医療、精神科医療、へき地医療、高度医療、周産期医療等に対する財政措置の拡充強化、医師の勤務実態を踏まえた処遇改善等にかかる財政支援措置（略）医師不足を解消するための適切かつ万全の措置、医師の地域偏在・診療科偏在是正に向け勤務環境改善など抜本的な対策を早急に講じること - を要望した。

こうした資料を探してゆきますと、平成 26 年 11 月、平成 27 年 10 月平成 28 年 10 月など、自治体病院経営に関する要望が出されています。



佐藤光司

平成 19 年 12 月 24 日付自治財政局長通知（公立病院改革ガイドライン）により運営してきた問題の解消ができないうえに、新たな公立病院改革ガイドラインを公立病院へ通知してまいりました。

こうした流れを分析しますと、新公立病院改革ガイドラインと、自治体病院経営に関する要望を比較しますと、大きな開きを感じます。

新公立病院改革ガイドラインでは、医療法に基づく地域医療構想の検討及びこれに基づく取組みと整合的に行われる必要がある。また、「住民の理解」をも求めています。

自治体病院経営に関する要望では、「自治体病院を運営する都市の議会は、住民が安心して医療を受けられる環境の整備に全力を傾注しているところであるが、自治体病院を取り巻く多くの問題点を地方自治体が単独で改善していくことは、極めて困難な状況となっている」としています。

私は、自民党支持者ではありませんが、全国自治体病院経営都市議会協議会が平成 28 年 11 月 28 日に要望活動を行った、細田博之・自由民主党総務会長・自治体病院議員連盟会長への要望を支持いたします。

具体的な質問（中津川市民病院・国保坂下病院、共通・ただし⑦除く）

- ① 医師確保の取組みをお示し下さい。
- ② 医師求人求職支援センターのデータを見ますと、岐阜県分があります。2016 年、2015 年で合計 49 名ありますが、中津川市関係は何名ですか？
- ③ 近年の中津川市出身者で医師になられた方は何名ですか？
- ④ 出身高校・大学が把握できていましたらお示し下さい？
- ⑤ 今後の医師確保、看護師など人材確保の取組みをお示し下さい？
- ⑥ 奨学金適用の医師確保の実績はどうですか？
- ⑦ 中津川市民病院を朝一番から利用する市民から、診察終了後 10 時 35 分から 12 時までの間、中津川駅行きのバスが無くて不便だ。診察時間で考慮するか、バスの利便をよくするか検討して欲しい。と訴えられました。交通関係（バス）の対策はどうですか？
- ⑧ 看護師の増減はありますか？
- ⑨ 増減の理由はなんですか？
- ⑩ 奨学金適用の看護師の場合はどうですか？

以上

## 1. 「都市鉱山から五輪メダルを」について

### [背景と大意]

2020年の東京オリンピックまであと3年半となりました。東京大会の組織委員会が今年の4月ごろから全国展開する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の一環で使用済み小型廃家電を回収する取り組みであります。

東京大会に必要な約5000個全てのメダルを再生金属で賄う方針。メダルの製作には、金が10キロ、銀が1230キロ、銅が736キロの計2トンが必要だが、製造工程でのロスを想定すると、4倍の約8トンを集めなければならないという。

小型廃家電の回収は、13年4月に施行された小型家電リサイクル法に基づいて、すでに各地で実施されている。16年4月時点で1219市区町村が導入し、全自治体の70%に上る。対象製品は携帯電話やデジタルカメラ、ゲーム機など100品目を超える。小型廃家電は15年度に約60万トン発生したが、同制度に基づく回収量は、その約1割(約6.7トン)にとどまっている。制度の周知不足や、自治体の取り組みに差がある事などが、その要因とみられる。

こうした中、小型廃家電の回収増に向け、自治体や民間企業が工夫を凝らした取り組みを進めています。例1. 長野市.....、例2. 愛知県大府市.....、環境省の話.....。(一般質問の場でお話しします)

### [質問]

- ①. 中津川市の最近の小型廃家電の回収状況と市の取り組み状況を伺います。
- ②. オリンピック組織委員会は「史上初の取り組みに向けて、全国で国民参加型の運動へと盛り上げていきたい。多くの人に協力してもらい、必ず実現させたい」と意気込んでいます。今後、全国のドコモショップ(約2400店舗)や自治体での回収を予定しているとのことですが、当中津川市へも国・組織委員会から要請依頼は来ているか伺います。
- ③. 民間事業者への取り組みへの要請のお願いはするのかわかりますか。
- ④. オリンピックを迎えるに当たり、小型廃家電の取り組みに市民の方も自分も参加しているとの思いになり、おおいに啓蒙活動をすべきと考えますが如何

でしょうか。

⑤. 民間企業等の事業者への取り組み要請はどのようにするのか伺います。

⑥. 市民への周知方法はどのようにするのか伺います。

## 2. 小中学校のトイレの洋式化の推進について

### [背景と大意]

学校のトイレ研究会の河村浩事務局長さんの話では「1990年代から数多く学校でトイレの状況調査を行ってきたが、現在も「臭い、汚い、怖い、暗い、壊れている」の「5K」と呼ばれるトイレが多数を占めているとのこと。

特に公立学校では限られた予算の中、後者の耐震化などを優先する為、トイレの整備は後回しになる自治体も少なくありません。国の調査では全国の公立小中学校にある約140万の便器のうち、洋式化率は43%にとどまっています。災害時には避難所ともなる学校のトイレは高齢者の利用や衛生面から洋式化を推進すべきです。」と話されています。

### [質問]

①. 本会議初日の補正予算で多くの学校施設へトイレの洋式化が予算化されました。大変感謝申し上げる次第であります。そこで再度、本市における小中学校のトイレの洋式化の現状を伺います。

②. 東京都は都内の市区町村の公立学校の洋式化率は55%ですが、オリンピックの年の2020年までに80%までにしたいと整備目標を設定しています。地方自治体では予算の関係から目標を立てるのは厳しい面もあるかと思いますが子供たちのためにも出来る限りの取り組みをお願いしたいと思いますが如何でしょうか。

③. 冒頭の学校のトイレ研究会の調査によりますと全国の教職員が求める学校施設の改善場所の第1位はトイレで59%であるとのこととあります。大田区では休み時間には洋式トイレに行列ができ時間内に用が足せない子供もいるとのこととあります。本市ではこのような事は無いとは思いますが如何でしょうか。

④. トイレは子供たちにとっても大変大事な場所です。キレイなトイレで安心して用が足せるように最優先で早期に整備をお願い致しますがご所見を伺います。

一般質問要旨

平成29年2月28日

柘植貴敏

議長のお許しを得ましたので、一般質問をさせていただきます。  
中津川市の観光によるまちづくりについて市の考え方をお伺い致します。

1. 中津川市の観光によるまちづくりについて

岐阜県がやっと東美濃で動きだしました。

岐阜県知事が今後4年間の観光振興について、「関ヶ原の次は恵那に力を入れる。リニア中央新幹線、中山道、地歌舞伎が一つの塊になる。」と述べられ、恵那山麓の観光地化に意欲を示された。(平成29年2月1日岐阜新聞)

岐阜県の平成29年度予算においても新規事業として、「ひがしみの歴史街道」として広域周遊観光の促進を掲げられました。どのような形で推進されようとしているのか大きな期待をしています。

くしくも、平成30年前半のNHK朝の連続テレビ小説は美濃加茂市出身の北川悦吏子先生脚本で東濃地方の架空の町が舞台になっているとのこと。徐々にその姿が見えてくると思います。楽しみにしています。

さて、私たちのまち中津川市も、新しい形での「観光によるまちづくり」が行われるようになりました。今までに、いろいろな事業を展開されていることについては、評価しています。

観光とは、その土地の風と光を見るものと理解しています。中津川には、色々な風と光があります。まだ原石の状態で誰にも気づかれず多くの風と光が眠っています。

観光によるまちづくりが、交流人口の増加による地域の活性化、賑わいの創出、消費拡大、雇用などで経済活性化へと繋がっていきます。観光資源を磨き上げることが地域の自信に繋がっていきます。来訪者が「住みたいまち」「訪れたいまち」へと成長する要因の一つではないかと思えます。

中津川市の観光振興については、基本構想では「地域資源の魅力を磨き上げ、広域連携により市外との交流が盛んなまち」「観光資源を生かし、来訪者をおもてなしするまち」とし、観光振興の内容として、「広域観光の推進」「体験・滞在型観光の推進」「リニアを活用した観光資源の発掘、磨き上げ」を行うと掲げられています。

また、地域外交流の推進により、「国際交流」「国内交流」で地域全体の振興と活性化を図るとしています。

また、実施計画では、具体的な事業名を掲げ「観光広域連携事業」「体験型観光推進事業」「外国人観光促進事業」「観光推進事業」の4事業が掲げてあります。

中津川市全体の現状がわかる資料がないかと探しましたところ、岐阜県が実施しています「岐阜県観光入込客統計調査」がありました。

この統計調査では、観光地点として「自然」、「歴史・文化」、「温泉・健康」、「スポーツ・レクリエーション」、「都市型観光（買物・食等）」、「道の駅等」、行祭事・イベントを調査対象としています。調査プロセスとして（1）観光地点等入込客数調査、（2）観光地点パラメータ調査、（3）観光入込客数（実人数）・観光消費額単価・観光消費額の推計によって成り立っています。

中津川市には、観光資源をまとめた資料が見当たりませんでしたので、「平成27年岐阜県観光入込客統計調査」を参考にして質問させていただきます。

- ① 中津川市総合計画の実実施計画で掲げられました具体的な4つの事業について、お伺いします。観光広域連携事業、体験型観光推進事業、外国人観光促進事業、観光推進事業について事業は実施されましたか。その成果は如何ですか。
- ② 中津川市の観光については、基本構想及び基本計画で位置付けされておりますが、観光全般に対応する指針・実施計画・プランのようなものすなわち「観光ビジョン」のようなものは、策定されていますか。

「平成27年岐阜県観光入込客統計調査」で、中津川市の観光地点として37地点、行祭事・イベントとして17件が挙げられています。「中山道と地歌舞伎」については、県、市長に委ねまして、私はその他の観光地点から質問致します。

- ③ 観光地点分類として自然資源について質問します。自然資源では「山岳、高原、湖沼、河川、海中、島、その他自然（エコツーリズム・グリーンツーリズム等）」が挙げられます。

自然資源としては、中津川市では県立自然公園「恵那峡」・「胞山」・「裏木曾」の3か所が指定されています。この3か所の県立自然公園は、中津川市ではどのような位置づけがされていますか。

- ④ 県立自然公園の整備計画はどのようになっていますか。
- ⑤ 県立自然公園を国定公園にするような働きかけは今までにありましたか。

ちなみに、飛騨木曾川国定公園として犬山市から飛騨川は下呂市竹原川舞峠まで、木曾川は恵那市笠置ダムまでが指定されています。

恵那山については、中央アルプスとして長野県が県立自然公園に指定しています。

- ⑥ 恵那峡は「大井ダム」により成り立っています。「大井ダム・大井発電所・旧八百津発電所・桃介橋・福沢桃介記念館・読書発電所・柿其水路橋・大桑発電所・須原発電所」とともに「木曾川の水力発電関連遺産」として近代化産業遺産（経済産業省）に指定されています。観光資源としての活用はできないでしょうか。（日本の近代土木遺産（土木学会）・ダム湖百選（水源地環境センター）にも指定されています。）

- ⑦ 観光地点分類「歴史・文化」について質問します。「歴史・文化」では、「史跡、城、神社・仏閣、庭園、歴史的町並み、旧街道、博物館、美術館、記念・資料館、動・植物園、水族館、産業観光、歴史的建造物、その他歴史が挙げられています。

「中山道」には宿場文化、木曾川以北には苗木藩・尾張藩文化があります。木曾川以北の苗木藩・尾張藩文化により培われた歴史文化には宿場文化とは違う文化があります。城址をはじめ、黒瀬街道、飛騨街道への歴史・文化も立派な観光資源です。「中山道と歌舞伎」で同時進行で考察できませんか。

- ⑧ 観光地点分類「温泉・健康」では、ラジウム鉱泉があります。ラジウムの含有量が日本でトップクラスの温泉があります。

「スポーツ・レクリエーション」ではキャンプ場、ゴルフ場、スポーツ施設、レジャーランドなども整備されています。「都市型観光（買い物・食等）」では、商業施設、中心市街地、食、菓子、農産物の直売、物産館などがあります。「道の駅」も5駅を数えることができます。イベントでも多くの人を呼び込んでいます。

中津川市が本気になって、観光によるまちづくりに取り組めば、その材料には事欠きません。資源の組み合わせでより大きくなります。岐阜県の動きに合わせてこれらの材料を「観光によるまちづくり」に使うことはできませんか。

今までは、観光地点について質問させていただきましたが、経済効果についてお尋ねします。

経済効果の高いのは宿泊客の入込みですが、中津川は下呂、飛騨の寄り道としての位置づけが高いと思いますが、仕掛けを創らないとゴミを落とすだけの

通過点となってしまいます。現状を教えてください。

⑨ 中津川市の宿泊許容人員は、日何人ですか。旅館、民宿、ホテル別で分かりますか。分かる範囲内で結構です。

⑩ 宿泊客の人員は把握していますか。ビジネス目的と観光目的別に分かりますか。分かる範囲内で結構です。

⑪ 分類別・地点別観光入込客数は3,499,329人(延べ)、イベント入込客数538,757人とありますが、観光消費額は調べてありますか。分かれば結構です。

⑫ 外国人の観光客で中津川に宿泊される人数はわかりますか。その人の国籍はわかりますか。宿泊場所はどこですか。

⑬ 観光でまちづくりを行う場合には、事業推進体制は確立されていますか。

⑭ 市民の感覚も外来者を受け入れることにより、感覚が変わってきます。自分の楽しみから観光を意識した活性化につながる地域活動へと繋がります。そのような新たな活動への行政支援は考えていますか。(自分の楽しみから、来訪者を意識した活動への支援 例：歌舞伎・映画・リレーマラソン等)

⑮ 今までに質問した事項は、確認事項のほんの一部です。お伺いしたいことは色々あります。観光でのまちづくりは、観光を意識した対応の必要性が求められます。市民、組織の意識改革をしなければ観光でのまちづくりは成り立ちません。

今回の知事の発言、リニアによる新たな環境等を考えると、観光でのまちづくりを行うには絶好のチャンスだと思います。新たな道の駅も計画されています。

観光でのまちづくりをしようとするならば、現況の把握と課題、方針、目標、地域別の取組み、推進体制等々観光全般についてを取りまとめたビジョンを市民に示す必要ありませんか。

観光は一夜では成り立ちません。多くの人の力と受入体制の樹立が必要となります。



中津川市の今後の観光によるまちづくりに対して、岐阜県の動きをも念頭において本気で取り組むのかその思いをお聞かせ下さい。

参考：平成 27 年岐阜県観光入込客統計調査

(平成 27 年の中津川市観光地点と入込客数)

・根の上高原 97,000 人・不動溪谷 78,000 人・中山道 326,000 人・馬籠宿 634,128 人・鉾物博物館 14,533 人・博石館 83,518 人・藤村記念館 27,311 人・ふれあい牧場 42,003 人・中津川温泉クアリゾート湯舟沢 146,901 人・倉屋温泉 163,976 人・岩寿温泉 11,280 人・東山温泉 7,253 人・紅岩温泉 22,324 人・桃の湖オートキャンプ場 28,353 人・福岡ローマンオートキャンプ場 13,347 人・宮島キャンプ場 10,998 人・アオミキャンプ場 12,046 人・森林キャンプ場 10,648 人・塔の岩オートキャンプ場 13,472 人・ひるかわゴルフ場 62,000 人・鮎釣り 22,800 人・夕森公園 144,789 人・恵那峡ワンダーランド 86,200 人・子ども科学館 17,131 人・かしも産直市 108,764 人・ちこり村 296,808 人・福岡農家直売所 34,425 人・道の駅きりら坂下 96,002 人・道の駅加子母 209,941 人・道の駅五木の館川上 25,946 人・道の駅花街道付知 196,128 人・道の駅賤母 181,682 人・にぎわい特産館 161,075 人・苗木城址 44,614 人・芝居小屋 10,707 人・中山道歴史資料館 20,017 人・苗木遠山資料館 37,179 人 計 3,499,329 人

(平成 27 年中津川市行祭事・イベントと入込客数)

六斎市 51,800 人・杵振り祭 5,000 人・ひるかわMA I K A 祭 8,000 人・福岡産業祭文化展 8,000 人・福岡ふるさと祭 10,000 人・夢まつり 10,000 人・レディースクラフトフェア 14,000 人・森林の市 20,000 人・観光栗園いがぐりの里 12,657 人・秋の中山道祭 20,000 人・春の中山道祭 12,000 人・十日市 80,000 人・夢まつり花火大会 8,000 人・おいでん祭 103,000 人・ふるさとじまん祭 145,000 人・あぎのひなまつり 12,000 人・SORAR BUDOKAN 19,000 人 計 538,757 人

### 1. 中津川市の防災対策について

明日で東日本大震災から 6 年が経過しようとしています。未曾有の津波などの被害は、6 年過ぎても衝撃的で当時の様子は忘れることができません。

そして昨年 4 月の熊本地震についても、震度 7 の地震が 2 回立て続けに起こるといふ観測史上稀にみる大地震でした。あらためて被害者の皆さまのご冥福をお祈りし、避難を続けている方々の生活が速やかに復興するよう心から願います。

これらの大地震が起こる予測はある程度されていたものの、ここまで大きな被害を伴うとは誰も考えていなかったと推察します。また、予測されていても起こる正確な日時までは現在のところ不可能です。したがって日ごろから十分な備えを行う事を教訓とすべきではないでしょうか。

昨年の 3 月にも災害対策についてうかがいましたが、「十分な備え」となっているか、あらためてお聞きします。

①「平成 27 年度事務事業にかかる内部評価の概要」の中に自主防災組織育成事業についての記載があります。

「順調に防災士の増員がなされており、市民の意識も高く他市では取組みきれていない「自主防災」が効果的に行われている」とありますが、効果的に行われている内容とは具体的にどのような事でしょうか。

②今年度までの防災士の人数はどのような状況でしょうか。

③中津川市内の全ての区で防災士が配置となっていますか。

④昨年確認したハザードマップについてですが、その後避難訓練などで「読み方」の研修など利用はできていますか。

⑤毎年行われている各地域での防災訓練は工夫もなされてきていますが、「毎回同じことの繰り返し」という声も聞かれます。さらなる工夫のためには防災士の活用がまさに必要であると思いますが、今後どのように防災士と連携を行って行きますか。

⑥防災訓練はおおむね地域の集会所などへの避難をするという形で行われているのが現状だと認識していますが、小中学校など指定避難所での訓練も必要だと考えます。地域の事情もあると思いますが、指定避難所での避難訓練を行うことはできませんか。

⑦障がい者や高齢者などの受け入れをお願いしている福祉避難所についても、訓練ができないでしょうか。

困難であると思いますが、「本当に受け入れてもらえるのだろうか」という障がい者の方の声もあります。また自分がどこに行けばいいかわからないという、こちらも障がい者の方の声ですが、いただいています。受け入れる側と避難する方の双方の周知のためにも何らかの対策が必要だと考えます。

⑧昨年もうかがいましたが、「避難所開設・運営マニュアル」はどの程度の進捗状況でしょうか。

冒頭にも申し上げた通り、いつ起こるか分からない災害へ備えを行うことは、最大の安心につながります。

移住・定住施策を推進し、声高らかに「中津川市へ来てください！」と言えること、観光客の誘客を増やすこと、リニア中央新幹線の開通に向けてなど、対外的にアピールするため、最大なる安

心感が得られるまち中津川となるよう、さらに防災対策の充実をお願いします。

## 2. 移住・定住推進にもつながる子育て・介護の支援策について

今議会で審議される新年度予算においても、やはり大きな目的で柱となっているのが移住・定住推進策だと思います。

しかし、現在全国どこの自治体でも移住・定住推進は主要な施策として掲げ、しのぎを削っているというのが現状でしょう。しかし、人口減少は一定の地域だけの問題ではなく、日本全国で起きている事ですから、お互いあからさまには口に出しませんが、移住者の取り合いとなっていると思います。

それぞれの自治体の条件や環境が違うため、同じスタートラインからの競争ではなく、その中で中津川市の施策が移住者の目を引き、さらに行動を起こして当地へ来ていただくには相当な努力が必要です。

そもそも移住をする、定住するという事はここで生活をするという事ですので、そのための施策は地に足がついたものであることが、さらには必要だと思います。

そのような観点で質問をします。過去にも同様な質問をしていますが、まだ不足な部分もあると感じての質問です。

新年度予算の概要にも「若者の地元定着と移住促進」とあり、さらには「働こう」「子育てしよう」と続いています。

「働きながら子育てしやすい環境」はまさに若い世代の移住・定住には魅力的な事だと思います。子育て支援策の中で保育士の確保など保育園への支援は取組も充実してきましたが、中津川市の「放課後児童クラブ」いわゆる「学童」はどのような状況でしょうか。保育園や幼稚園と違い厚生労働省の所管ですので、対策も違うとは思いますが、今後の対策も含め確認をしたいと思います。

- ①「学童」への待機児童はいますか、またその人数は。
- ②今後の学童の利用者数の予想はありますか。
- ③順次建物について、更新の必要なところは支援が行われてきましたが、直近建て直しなどの計画はどのようになっていますか。
- ④新規で設置される学童は。
- ⑤どこの学童でも指導者の確保に苦慮されていると聞いていますが、そのための支援策は。
- ⑥指導者への研修はどのように行われていますか。

働きながらの子育てと同様、働きながらの介護も問題となる場合も多く、相談をいただく事が多い状況です。

若いうちだけでなく、年齢を重ねても中津川市で働き続け住み続けるためには、介護支援の充実も重要だと思います。

介護支援策の中でも今回は「地域包括ケア」について確認します。

今後は施設介護から在宅介護へと介護する場所が変わってきます。特に働きながらの在宅介護はたいへん厳しく不安を抱える人は少なくありません。在宅介護において心身ともに負担を少なくするためには地域包括ケアシステムのきちんとした運営が必要です。

地域包括ケアシステムは名の通り地域が主体となって進める事業ですが、地域主導のため自治体

などで格差が生じることがあると言われています。

⑦中津川市の地域包括ケアシステムはどのような状況でしょうか。人員の充足などについて教えてください。

⑧今後さらに充実させる必要があると思いますが、具体的な計画はありますか。

⑨近隣の市町村の包括ケアシステムと比較して、充実している点はどのようなことですか。

⑩厚生労働省は地域包括ケアの「見える化システム」の導入を呼び掛けていますが、中津川市での導入は。

今回のテーマとは少し離れますが、子育てや介護で就労をあきらめるということは、市内企業の経営者にとっては働き手が少なくなるということです。現在でも人材確保に多大な労力を費やしていると実際聞いています。今回の私の質問は勤労者側の視点ですが、返せば企業支援にもつながると思います。

色々な視点や考え方で、中津川市は働きやすいというイメージで移住・定住推進につながるような努力をお願いします。

1、坂下病院の機能縮小問題、「新公立病院改革プラン」(案)について質問します

公立病院機能検討委員会の方針では「坂下病院は入院を廃止し、外来は内科と透析のみ」でした。市長方針で、「療養病棟を残す、外来機能は医師確保が可能な診療科は残す」と発表されました。病院検討委員会の案より少し前進しました。しかし入院機能として、肺炎や白内障などの一般の入院は、急性期及び回復期病床として市民病院に集約するという方針です。

(1)、ベッド数について

- ①ベッド数の削減が計画されていますが、現在中津川市はベッド数が多すぎるのですか？
- ②ベッド削減した後は、適正な数ですか
- ③政府は医療費を削減するために地域医療構想を策定して2025年を目標に各自治体に計画をつくらせています。中津川市はその時点でのベッド数は何床ですか

(2)、坂下老健の移設について

- ①老朽化は進んでいるが、耐用年数はあと何年ですか。
- ②経営状況はどうなっていますか
- ③坂下老健の移設と病院のベッド削減によって坂下病院の経営はどうなりますか。

(3)、「新公立病院改革プラン」(案)について、

- ①「療養病棟を残す」ことについて、今後変更はありますか。
- ②急性期・回復期の一般病床について市民病院に集約となっています。急性期・回復期の一般病床をすべてなくすのはいつの予定ですか。
- ③入院の整形外科・眼科の集約はいつの予定ですか
- ④外来機能について、市長は「医師確保のできる診療科は残す」とされましたが、今後どのようになりますか。

⑤外来診療の中で、手術や入院が必要な方が出てくる。外来と入院は一体のものですが、「入院機能の市民病院への集約化」は、現在の坂下病院では医師は入院も外来も診察ができた。今後は外来だけになるということであり、入院の診察もしたければ市民病院に行かなくてはならない。集約化は医師の集約化でもあると思いますが、医師のみなさんはどのように考えておられるのでしょうか。

⑥集約化はすべてを集約するということ。公立病院改革プラン案では地域医療構想との整合性の中で「経営基盤の効率化」として「市民病院と坂下病院それぞれで独立していた、戦略・人事・管理について、病院事業として一本化を図る」とあります。

これは病院事業部が本部で、市民病院と坂下病院はその下で動くということですか？

⑦坂下病院の付帯事業について、

「再編によって、住民にアクセスの不便はあっても、機能がなくなることがないように配慮する」「集約化したサテライト運用を検討する」とあります。どういうことですか。

⑧経営形態について、市民病院は、今後どのように考えていますか。

⑨同じく坂下病院はどのように考えていますか。

(4)、坂下病院で診察を受けている患者さんから「残してほしい」との声を多く聞いてきました。

市長方針では一般病床が残らないと知り、木曾地域ややさか地域の人々だけでなく、中津川市全域から、今回も約20日間で「坂下病院に一般病床の存続を求める」請願署名が15000筆を超えて集まり、提出されました。やさか地域や木曾地域の区長会やまちづくり協議会からも一般病床である急性期・回復期病床の存続や外来・救急の現行のまま存続を求める要望書が市長あてに提出されました。

これらの声や署名や要望にどう答えますか。

2、リニア新幹線問題とリニアまちづくりについて質問します

(1)、山口非常口からのトンネル掘削工事が始まっています。地域説明会が4～5回行われました。

田瀬の民間事業者の採石跡地を残土・発生土置き場にするとの説明があり、沿線住民から安全などについての心配の声が出され、民間の採石事業者の地権者に約2000筆の署名も集まっています。

この残土問題の説明会に市の担当者が足を運んでいます。市民の声を聞いておられると思います。市民の心配は情報がないからです。市としてできる限り情報を得て市民に知らせることが必要だと思いますが、ご所見を伺います。

①田瀬の置き場には20万m<sup>3</sup>埋めるとのことですが、山口トンネルの全体の発生土の総量、置き場の数や大きさはどうなっているか。

②自然環境や生活環境に及ぼす影響について、「事後保障」の根拠となる「事前の影響調査調査」が必要と考えるが、どうか。

③工事用車両の運行に関しての安全対策はどうか

④リニア工事に関連して、環境基準を超える物質が排出された事例があったが、排出土のチェックはどのように行われるのか。

⑤300台の10トントラックがピーク時には3分に1台運行すると説明があったが、運行について安全対策、待機場所などはどうなっているか。

⑥JR東海と事業者は、「区長会」を窓口に行っているが、区長会には権限も責任もない。住民から要望があれば説明会や懇談会などができるように市として窓口となって、橋渡し役をすることが必要と思うがいかがですか。

(2)、送電線計画について

現在の新幹線の3倍もの電力を使うと説明されているリニア新幹線は、環境影響評価のなかに送電線は入っていません。

50万ボルトの電圧を恵那市武並に建設予定の変電施設で15万4千ボルトに減圧して、恵那市笠置から中津川市蛭川を通して高山から苗木、駒場に建設予定の変電施設で7万7千ボルト減圧して車両基地へ繋ぐルートの説明会、坂本地域の説明会が各地域で行われているようですが、人体への影響や景観、など心配する声が多く出されているようです。

①このような説明会に市としては参加されているのですか

②市の窓口はどこが担当されますか。

③環境問題、景観問題、土地問題と担当がそれぞれ違うのではないかと思います。それぞれバラバラに対応されるのか、一本化されるのかどうですか。

(3)、「リニアのまちづくり」事業について、

①神坂サービスエリアからETCで出入りできるスマートインターの設置に伴う道路建設にかかる費用と完成までのスケジュールはどうなりますか。

②地域への説明会が行われたと聞きましたが、住民の意見とその対応について紹介してください。

③都市間連絡道について新設道路の建設費用と工事完了までのスケジュールはどうなりますか。

④地域説明会での意見やその対応についてお聞きします。

⑤リニアのまちづくり基金への積立金5億円について、財政が厳しく様々な取り組みの中でも5億円の基金積み立てが議会初日に決定しました。累積で22億円とのこと。今後リニアのまちづくり基金はどれくらいまで積み立てる予定ですか。

⑥昨年の3月議会において説明があった中津川市としてのリニアのまちづくりにかかる費用が総額で「400億円」と言われました。費用負担はまだ決まっていないとのことでしたが、その後はっきりして

きましたか。

⑦「リニアのまちづくり」はこれで終わらないと思います。「リニアの見える丘」道の駅を建設すると庁舎あげての取り組みとして発表されましたが、この計画はどうなっていますか。

## 1. 安全・安心の街づくりについて

### 【主旨】

平成28年4月16日熊本県熊本地方で最大震度7の大規模地震が発生し、震源地とされる益城町や西原村では多くの方々が被災された。あれから1年の歳月が経とうとしているが、今なお不自由な避難生活を余儀なくされている方も少なくない。

この震災は震度5以上の余震が繰り返して発生し、避難者数も18万超を数えた。(最大時 183,882人)こうした状況下、避難所で体調を崩された方もあり、様々な問題点も検証されている。

同年12月22日新潟県糸魚川市駅北の商店街(住宅密集地)で発生した火災は、強風による飛び火で火点が分散して延焼し、被害建築物は147棟に及んだ。現地では363世帯744人に避難勧告が出された。

昨年の忘れられない震災と火災の事案であり、これは決して他人事ではないと受け止めなければならない。

全国の被災地に赴き救援活動に尽力されている元航空自衛官で宮城県の防災指導員でもある防災士のA氏は、防災に対する備えとして・・・「自分のところは大丈夫だ！災害なんて来るわけがない！」こうした危機意識、当事者意識が一番不足しているのではないかと警鐘を鳴らしています。A氏は、東日本大震災の時は宮城県名取市で施設管理のお仕事をされていて被災されたようですが、その時の体験が今日の活動原点であると講演されています。

「日頃から危機意識を持って、いざ災害が発生したらどのような行動をとるべきか？事前に考え、検証しておくことがとても大事なことです！」と。

安心、安全な街づくりを推進していくうえで、最も大切なことは、危機意識を持つこと、意識高揚を図ること、情報を共有すること、訓練を積み重ねること、だと考えます。今回は、こうしたことを背景に以下の項目で質問をいたします。

### 【質問】

#### 《1》 防災士について

- ① 市内における防災士資格者の掌握はしているか。
- ② 防災士資格の取得について補助的支援は講じているか。
- ③ 防災士との情報共有について対応を講じているか。
- ④ 各地の自主防災会との連携について現況はどうなっているか。
- ⑤ 各地区の総合事務所及び消防団組織などとの協力はどうなっているか。

#### 《2》 防災訓練について

- ① 2月10日 国、県、中津川市の行政間で土砂災害を想定した机上訓練を実施されているが、この内容と効果について伺いたい。
- ② こうした訓練の成果や検証結果について防災士に通達されたらどうか。
- ③ 今後の防災訓練に取り入れるべき内容はないか。
- ④ 当市が被災して各ボランティアを受け入れる体制はできているか。

#### 《3》 観光客、誘致企業の安全、安心について

- ① 当市に訪れる観光客の安全安心を図る為の方策は考えているか。
- ② 市内の企業内にも防災士が在籍していると承知しているが、この連携強化の対策はどう考えているか。

以上



# 平成29年第1回定例会一般質問

平成29年2月28日提出

吉村 久資

## 【発言内容】

### 1. ふるさと納税について

#### 「質問要旨及び背景」

ふるさと納税は、「ふるさとを応援したい」、「ふるさとのために何かをしたい」という想いを寄附という形で実現していただける制度として始まったと理解しています。しかし、制度が知れ渡ると、制度利用の趣旨が大きく変わってきたと考えます。特に、平成27年度改正による制度拡充により、平成27年度上半期（4月～9月）の実績は、全国で約228万件、約453.6億円となっています。自治体のPR、特産品による地域や地域産業の発展、観光客の呼び込み、財源確保等々があり制度を否定するものではありませんが、返礼品競争や転売等々に対する総務大臣の発言や制度を止める自治体が出てきているのが現状です。そこで、中津川市のふるさと納税の現状と方向性について質問をいたします。

#### 「質問」

- ①中津川市ふるさとづくり寄附金の平成20年度からの受入状況を見ますと、平成21年度が18件で9.1百万円余であったものが、平成26年度にかけて寄附金額が4.1百万円まで減っていき、平成27年度に5.6百万円に増えたという実績ですが、この寄附金額の流れをどのように分析されているのか伺います。
- ②ふるさと納税制度には税控除がありますが、寄附金額から返礼品代と控除された税との収支について、平成25～27年度の3ヶ年度分を伺います。
- ③平成28年度第6回定例会において6,079千円の補正を組まれましたが、平成28年度の収支予想について伺います。
- ④返礼品について、5万円以上については選択制が明示されていますが、1万円以上5万円未満については一品目という理解でよいのか伺います。
- ⑤寄附金についてはすべて基金積み立てされているという理解でよいのか伺います。
- ⑥中津川市の場合、寄附金の用途を選択できるのか伺います。
- ⑦返礼品に同封しているものについて伺います。
- ⑧中津川市民がこの制度を利用する場合もあり得ると考えますが、平成27年度の制度利用者127件の市内・市外・県外の内訳を伺います。
- ⑨ふるさと納税制度が存在する限り、制度を止めることは税控除による歳入減だけが残ることとなるわけで、最低でも収支プラス0円以上をキープすることが必要ですが、そのための策について伺います。
- ⑩ふるさと納税を機に「中津川市へ来たくなる」、又は「来なければならない」返礼品を模索することが大事だと考えますが見解並びに現在策をお持ちでしたら伺います。
- ⑪平成27年4月1日の総務大臣通知等は中津川市の展開に影響があったのか伺います。
- ⑫中津川市のふるさと納税に対します方向性について伺います。

## 2. 市職員の健康管理について

### 「質問要旨及び背景」

ストレスチェックについては、労働安全衛生法の改正により、2015年12月1日から2016年11月30日までの間に1回目の実施が義務つけられています。この制度に関わらず、心身の健康は生活における源と私は考えます。行政が市民サービスを遂行するためには、市職員の心身の健康とその管理が大事であるという観点から以下質問をいたします。

### 「質問」

- ①中津川市のストレスチェック調査の実施実績について伺います。
- ②質問票については国が推奨する57項目の職業性ストレス簡易調査票がマニュアルとしてありますが、中津川市はそれと同じなのか、特に掘り下げたい項目を加える等の独自の質問票を用いたのか伺います。
- ③質問票の配布から多くの工程がありますが、現在中津川市はどの工程にいるのか伺います。
- ④ストレスの程度の評価は医師が行うという理解でよいのか伺います。
- ⑤人事課としては、どのような形で評価結果を把握するのか伺います。
- ⑥評価結果と分析内容について伺います。
- ⑦分析結果から部、課等の一定規模の組織の状況が把握できるのかどうか伺います。
- ⑧職場環境の改善につなげていかなければならないものですが、1回だけでは見えないとは思いますが。毎年の実施により部・課の状況をしっかりと把握し改善できるものは「する」という姿勢について見解を伺います。
- ⑨全日本自治団体労働組合（通称自治労）では、毎年秋に「生活実態と意識に関する調査」を行っており、今年度も10月～11月に実施して集計ができていますので、そのデータを借りて質問をします。「自分の仕事や職業生活に関する事柄からくる強い不安や悩み、ストレスとなっていることがありますか」という質問に対し、「ある」「ややある」と回答した人が、中津川市職員（組合員＝管理職を除く）で、76.4%。男性66.0%、女性82.0%とありました。岐阜県の加盟自治体の平均と比較した場合、全体では2.1ポイント高く、男性では3.5ポイント低く、女性は3.2ポイント高い結果でした。これは、病院と保育園が大きな要素と私は考えます。女性職員の状況の把握と改善が必要と考え見解を伺います。
- ⑩年休について伺います。この調査における自己申告による年休取得日は、昨年度7.3日でした。人事課で把握されている管理職以上の年休取得日数について伺います。
- ⑪年休を取得しやすい雰囲気の問題に対し、「どちらかといえばある」も含めると、全体で61.0%、男性73.4%、女性54.3%でした。女性の率の低いのは、前述の職場・職域と推察いたします。この取得しやすい雰囲気の醸成について見解を伺います。
- ⑫本年2月24日に「プレミアムフライディ」が初めて実施されました。なかなか実施には厳しいものがありますが、官公庁関係では、厚生労働省や経済産業省がメディアに取り上げられていました。これは、休みやすい一つの理由となります。市民サービスに影響を生じさせない段取りの中で推奨させるべきと考えますが見解を伺い

ます。

- ⑬病気休暇について伺います。現在メンタルにより病気休暇を取得されている職員数について伺います。
- ⑭ここ3年間のメンタルにより病気休暇を取得された職員数と復帰された職員数について伺います。
- ⑮メンタルではなく疾病により長期間（3ヶ月以上）休まれた方のここ3年間の職員数と復帰された職員数について伺います。
- ⑯職員の健康診断の受診率と二次検査以降の受診率について伺います。
- ⑰どちらも100%、特に二次検査の徹底に努める必要があると考えますが見解を伺います。
- ⑱ストレスチェックに始まり、休暇、健康診断について質問をさせて頂きましたが、改めて市職員の健康管理について所管部署の見解を伺います。